

# 環境報告書

## Environmental Report

### 2020

対象期間；2019年4月～2020年3月



西川ゴム工業株式会社  
NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.

# 目次

	(ページ)
・会社概要	1
・環境マネジメント	1
・環境保護への取り組み	2
・環境に配慮した設計, 生産活動の紹介	2
・CO <sub>2</sub> 排出量削減の取り組み	3
・主要海外グループ会社環境実績	4
・廃棄物に関する取り組み	5
・環境負荷物質の排出状況と水使用量	6
・2019年度の環境パフォーマンスまとめ	7
・環境コンプライアンス	8
・地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション	
( 国内生産拠点 )	9 ~ 10
( 国内関係会社 )	10 ~ 11
( 海外関係会社 )	12 ~ 14

# 会社概要 (2020年3月31日 時点)

## 【 会 社 概 要 】

社 名 西川ゴム工業株式会社 (NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.)  
 所 在 地 〒733-8510 広島市西区三篠町二丁目2番8号  
 代 表 者 代表取締役社長 福岡 美朝  
 設 立 1949年4月  
 資 本 金 3,364百万円  
 従 業 員 数 1,411名 ( 連結:6,696名 )

## 【 事 業 内 容 】

自動車用部品 ゴム・樹脂シール製品, 内外装製品, 等  
 一般産業資材 住宅関連製品, 土木関連製品, 等

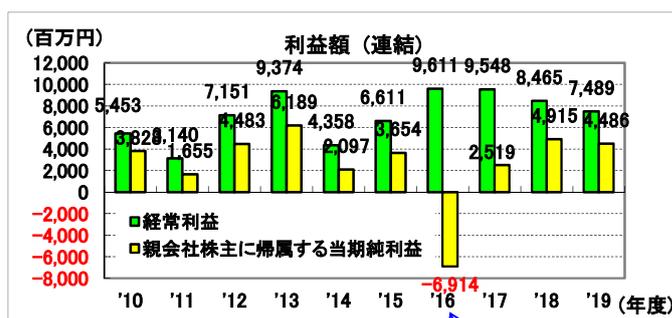
## 【 国 内 拠 点 】

工 場 白木工場, 吉田工場, 安佐工場, 三原工場  
 営 業 所 横浜営業所, 宇都宮営業所, 浜松営業所, 名古屋営業所, 大阪営業所, 広島営業所, 山口出張所  
 国内関係会社 西川物産(株), (株)西川ビッグオーシャン, (株)西川ゴム山口, (株)西和物流, 西川デザインテクノ(株)

## 【 海 外 拠 点 】

ア メ リ カ NISHIKAWA COOPER LLC / Nishikawa of America, Inc.  
 タ イ Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.  
 中 国 上海西川密封件有限公司 / 広州西川密封件有限公司 / 西川橡胶(上海)有限公司 / 湖北西川密封系統有限公司  
 メ キ シ コ NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. DE C.V.  
 イ ン ドネ シ ア PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA  
 イ ン ド ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD.  
 イ ギ リ ス NISHIKAWA RUBBER CO.,LTD. Europe Branch

## 【 連 結 業 績 の 推 移 】



※ '16年度は、独占禁止法関連損失を特別損失として計上の結果、純損失が発生しました。

# 環境マネジメント

## 【 環 境 方 針 】

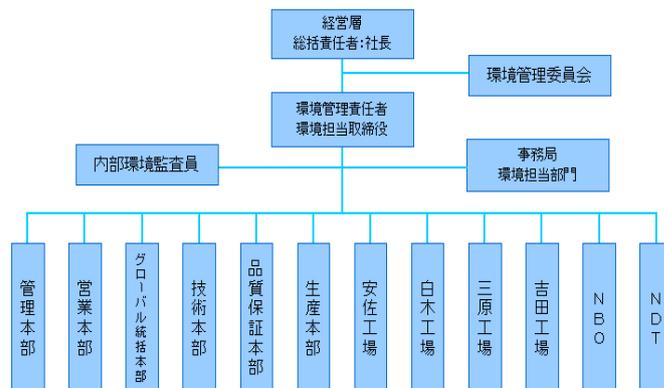
### < 基本理念 >

当社は、環境保護を経営の重要課題として位置づけ、開発・設計・購買・生産・物流・販売・廃棄までの製品のライフサイクル全段階にわたって、社は(正道, 和, 独創, 安全)の精神で「地球にやさしい事業活動」をグループ全体で取り組みます。

### < 行動指針 >

- 法令遵守  
環境関連の関係法規制等、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守します。
- 環境に配慮したモノづくり  
省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物の削減、環境負荷物質(有害化学物質)の使用抑制及び汚染の予防に取組み、その継続的改善による環境保護に努めます。
- 社内啓発活動  
全従業員の環境に関する法律遵守及び環境への意識向上を図るため、環境教育を継続的に実施し、全社的な環境保護活動を推進します。

## 【 環 境 管 理 体 制 】



## ● ISO14001認証取得状況

取得時期	有効期限	認証機関
2000年12月	2021年9月	DNV GL Business Assurance

# 環境保護への取組み (西川ゴム単体)

西川ゴム工業の環境側面をふまえて、環境目的・目標を設定し活動しています。

## ◆ 2019年度目標と結果

No.	取組み項目	2019年度目標	2019年度実績	備考
1	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	CO <sub>2</sub> 排出量 41,623 t	CO <sub>2</sub> 排出量 42,368 t	2019年度は、排出量・原単位ともに目標は未達となりました。  総排出量の削減は長期的視点にたち、来年度以降も、長期(2030年度)目標として設定されている目標値へ向け、改善を継続的に推進していきます。
2	CO <sub>2</sub> 原単位の削減 (排出量 ÷ 投入重量)	CO <sub>2</sub> 原単位 1.301	CO <sub>2</sub> 原単位 1.310	
(参考)	CO <sub>2</sub> 原単位の削減 (排出量 ÷ 売上高)	CO <sub>2</sub> 原単位 0.844	CO <sub>2</sub> 原単位 0.868	
3	製品含有化学物質管理 システム構築(REACH規制対応)	化学物質全成分把握 調査把握 100%	化学物質全成分把握 調査把握 100%	
4	マテリアルリサイクルの推進	軽量化・樹脂化, マテリアル リサイクルの技術開発	軽量化・樹脂化, マテリアル リサイクルの技術開発	

## ◆ 長期環境目標の設定 (2013年度基準 ⇒ 2030年度 排出量 6.5%削減)

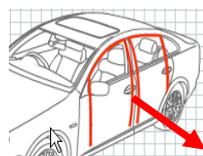
No.	取組み項目	(基準年度) 2013年度実績	2020年度目標	2030年度目標	備考
1	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	CO <sub>2</sub> 排出量 42,106 t	CO <sub>2</sub> 排出量 41,413 t	CO <sub>2</sub> 排出量 39,369 t	※ 2020年度より、毎年の経産省報告の「エネルギー原単位」を、全社目標として展開します。
2	エネルギー原単位の削減 (経産省定期報告算定値)	-	前年実績比 99%未満	別途設定	
3	製品含有化学物質管理 システム構築(REACH規制対応)	化学物質全成分把握 調査把握 100%	化学物質全成分把握 調査把握 100%	化学物質全成分把握 調査把握 100% (継続対応)	
4	マテリアルリサイクルの推進	軽量化・樹脂化, マテリアル リサイクルの技術開発	軽量化・樹脂化, マテリアル リサイクルの技術開発	別途設定	

# 環境に配慮した設計, 生産活動の紹介

## ◆ 樹脂グラスランチャンネル 拡大展開推移

自動車用ドアガラス周りシール材の「グラスランチャンネル」は、従来 硬質ゴム材料で生産されておりました。これに対して'09年に当社は、押出工程の加熱装置が排除でき、生産時のCO<sub>2</sub>削減効果が高い樹脂製(TPE: 熱可塑性エラストマー)への材料置換を行うとともに、固有コアテクノロジーの1つである「発泡技術」を活かした世界初(当社調査範囲)の「発泡樹脂グラスランチャンネル」を開発し、軽量化に貢献してまいりました。

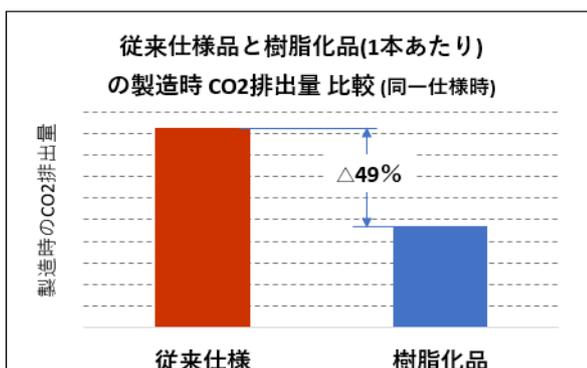
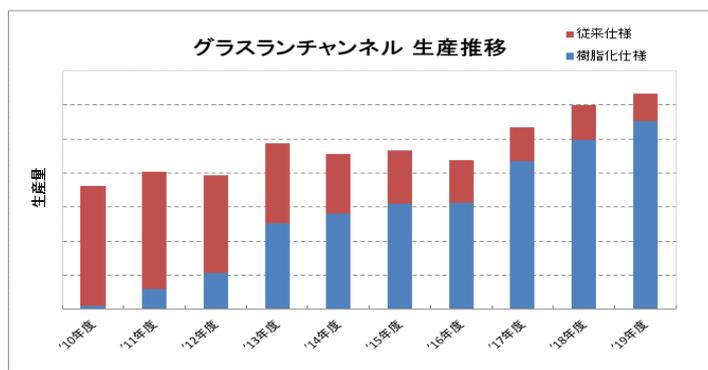
今、そこから10年の時が経ち、途中'14年から発泡部位を“骨格部”から“意匠部”にまで広げ『軽量化』を約30%まで拡大(ゴム材料との比較)しました。



グラスランチャンネルの装着位置概要



グラスランチャンネル製品断面写真

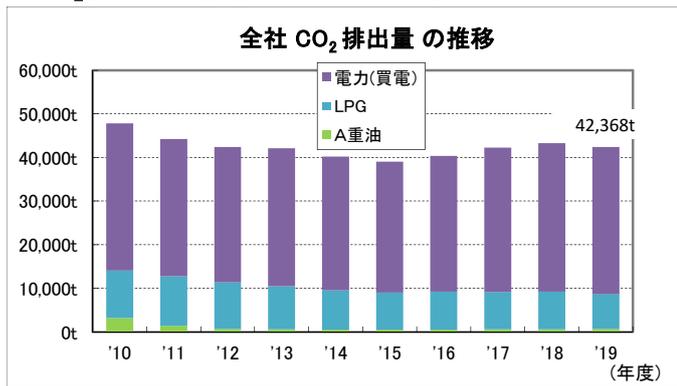


樹脂化のメリットは、それに加え マテリアルリサイクルとして、住宅の防音床・人工芝用資材として、再生利用にも活用の幅を広げ、単純廃棄物の削減にも貢献しています。

'19年には、この部品に加飾性も付加して商品性を大幅アップさせるなど、当社は今後も、この樹脂化方針を継続展開し、売上拡大とともに生産時CO<sub>2</sub>削減を積極的に推進し、“人と環境にやさしい シール設計・モノづくり”を進めていきます。

# CO<sub>2</sub>排出量削減の取組み

## ◆ CO<sub>2</sub>排出量の推移 (西川ゴム単体)



CO<sub>2</sub>換算係数は、下記の値を使用しました。

・電力: 0.555 kgCO<sub>2</sub>/kWh(代替値)

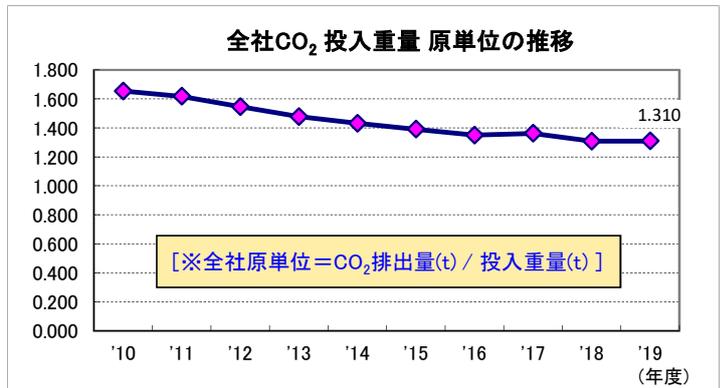
・A重油: 2.71 kgCO<sub>2</sub>/L

・LPG: 3.00 kgCO<sub>2</sub>/kg

※出典: 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧 (環境省)

## ◆ CO<sub>2</sub>原単位の推移 (西川ゴム単体)

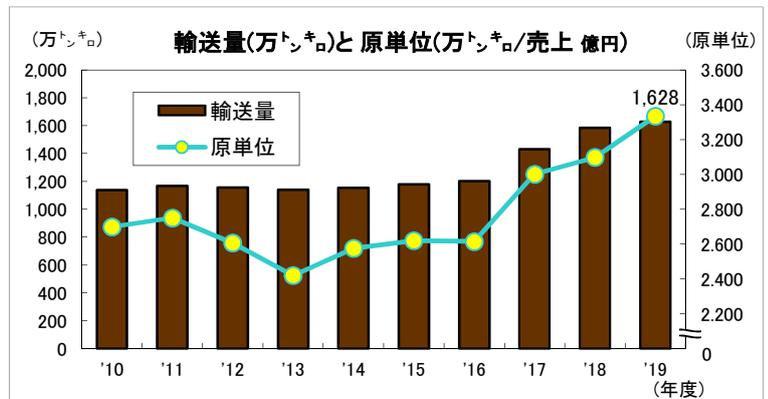
CO<sub>2</sub>排出量削減, 原単位改善に向けて, 生産拠点及び本社等の非生産拠点それぞれに, 原単位目標を設定し低減に取り組んでいます。



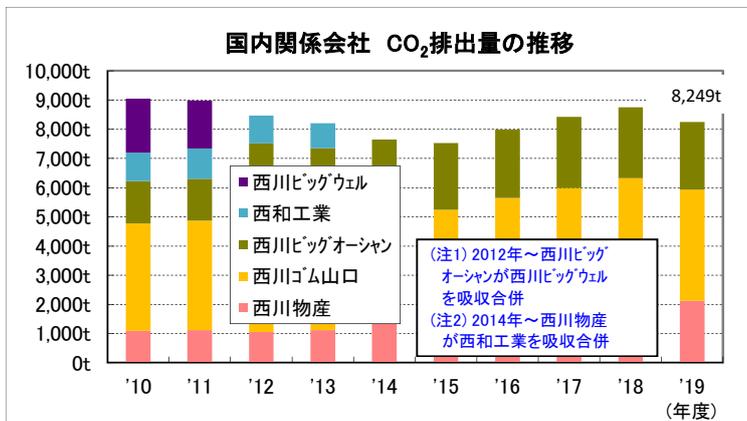
## ◆ 物流改善 (西川ゴム単体)

当社の2019年度の輸送量は, 2018年度と比較して2.8%増加の1,628万トンキロで, 新製品仕様の多様化(複雑化・大型化)によりケース毎の収容効率が低下し原単位が上昇傾向となっています。

今後も荷姿収容改善による運送積載効率の向上, 工場間便の集約, 物流拠点の集約化を実施し, 原単位低減を推進してまいります。



## ◆ 国内グループ会社のCO<sub>2</sub>排出量推移



グループ各社も, 2008年度より当社と歩調を合わせた省エネ活動を実施しています。

2019年度のCO<sub>2</sub>排出量は, 当社の仕事量と同様に第4四半期からCOVID-19の影響による世界的な仕事量落ち込みを受け, 前年比若干の減少となりました。

CO<sub>2</sub>換算係数は、下記の値を使用しました。

電力: 0.555 kgCO<sub>2</sub>/kWh(代替値)

A重油: 2.71 kgCO<sub>2</sub>/L

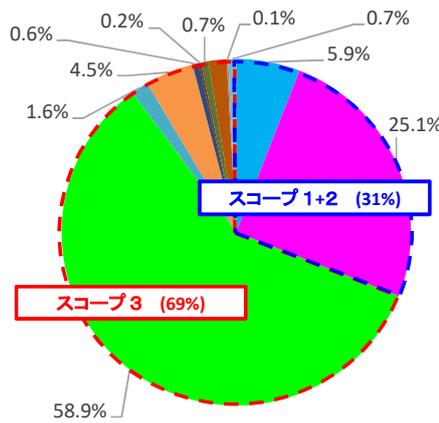
LPG: 3.00 kgCO<sub>2</sub>/kg

出典: 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧 (環境省)

## ◆ 国内 NRC Gr全体 ライフサイクル管理の推進 (スコープ1～3 実績把握)

2019年度 スコープ1～3 実績

項目	CO <sub>2</sub> (ton)	割合
スコープ1 事業者自らの直接排出～国内Gr全体	9,289 t	5.9%
スコープ2 他社からの供給分(間接排出)～同上	39,386 t	25.1%
カテゴリ1 購入した製品(原材料・副資材・他)	92,399 t	58.9%
カテゴリ2 資本財(自社資本財の建設・製造)	0 t	0.0%
カテゴリ3 エネルギー関連活動(S1・2非含分)	2,512 t	1.6%
カテゴリ4 輸送、配送(自社費用負担分)	7,044 t	4.5%
カテゴリ5 事業から出る廃棄物(自社分)	894 t	0.6%
カテゴリ6 出張(従業員の出張に伴う)	341 t	0.2%
カテゴリ7 雇用者の通勤	1,069 t	0.7%
カテゴリ8 リース資産(上流)	0 t	0.0%
カテゴリ9 輸送、配送(ユーザー負担分)	0 t	0.0%
カテゴリ10 販売した製品の加工(協力企業排出量)	2,662 t	1.7%
カテゴリ11 販売した製品の使用	0 t	0.0%
カテゴリ12 販売した製品の廃棄(加工委託先分)	223 t	0.1%
カテゴリ13 リース(下流)	0 t	0.0%
カテゴリ14 フランチャイズ	0 t	0.0%
カテゴリ15 投資	1,143 t	0.7%
スコープ1+2+3 総計	156,962 t	100%



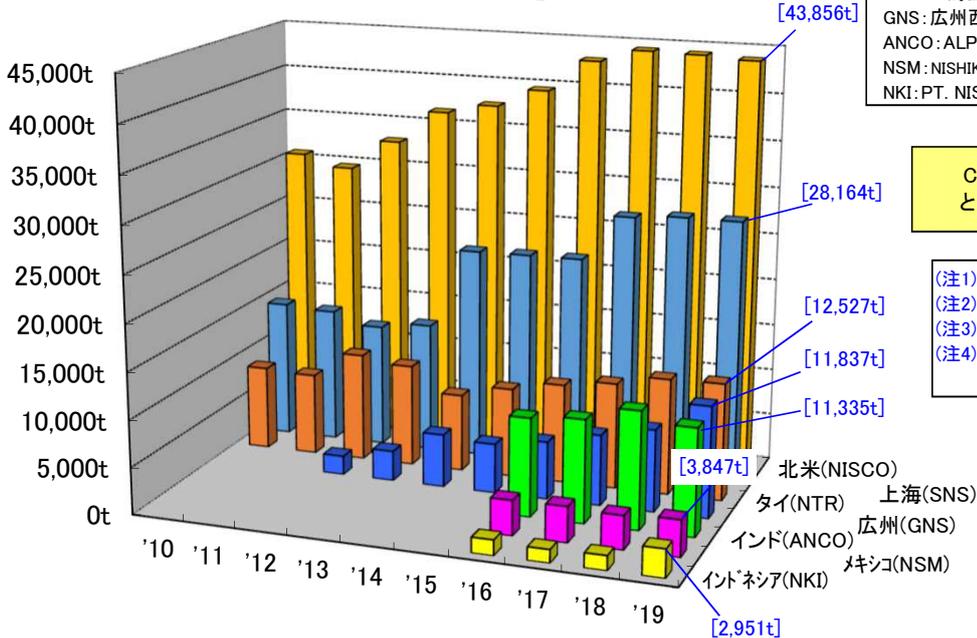
当社は, サプライチェーンを通じた排出量全体像を把握することで, 実質的な削減対策の策定につなげることを狙いとして, 自社の排出量管理にとどまらず, 経産省/環境省のガイドラインに基づいた「スコープ3」の算定を2017年度より実施しています。

今後, 徐々にサプライチェーンでのCO<sub>2</sub>排出量の削減活動を推進していきたいと考えております。

# 主要海外グループ会社 環境実績

## ◆ 主要海外グループ会社のCO<sub>2</sub>排出量と原単位の推移

主要海外グループ会社 CO<sub>2</sub> 排出量推移



＜主要 海外グループ会社の名称＞  
 NISCO: NISHIKAWA COOPER LLC(アメリカ)  
 NTR: Nishikawa Tachiplalert Cooper Ltd.(タイ)  
 SNS: 上海西川密封件有限公司(中国-上海)  
 GNS: 広州西川密封件有限公司(中国-広州)  
 ANCO: ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD.(インド)  
 NSM: NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. DE C.V.(メキシコ)  
 NKI: PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA(インドネシア)

CO<sub>2</sub>換算係数は、各国の設定係数をベースとした値によるもので算出されております。

(注1) 海外関係会社の中の生産拠点(7拠点)  
 (注2) それぞれの会社の決算月による年間データ  
 (注3) 広州(GNS)は、2012年～生産対応を開始  
 (注4) インド(ANCO)、メキシコ(NSM)、インドネシア(NKI)は、2016年～データ収集を開始

＜各拠点原単位算出ベース＞

広州(GNS)	(CO <sub>2</sub> t/万円)
タイ(NTR)	(CO <sub>2</sub> t/M baht)
上海(SNS)	(CO <sub>2</sub> t/万円)
北米(NISCO)	(CO <sub>2</sub> t/生産千Lbs)
インド(ANCO)	(CO <sub>2</sub> t/百万Rs)
メキシコ(NSM)	(CO <sub>2</sub> t/生産t)
インドネシア(NKI)	(CO <sub>2</sub> t/億IDR)

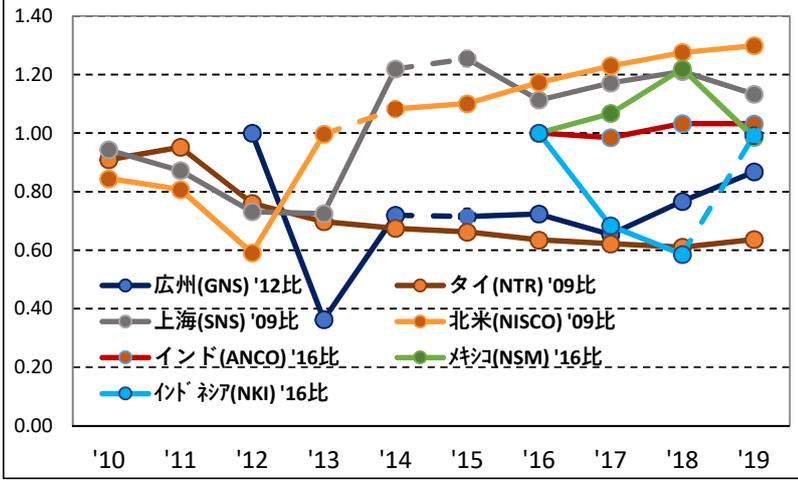
海外のグループ会社におけるCO<sub>2</sub>排出量推移は、生産量の拡大により現時点では増加傾向にあります。

原単位として、北米で'13年に生産に関わる量の見直しを行ったことで増加。

上海/広州では'14年、そしてこの度'19年度より、インドネシアにおいてCO<sub>2</sub>排出係数の見直し(現地指定係数反映)を行い、排出量及び原単位が増加となっています。

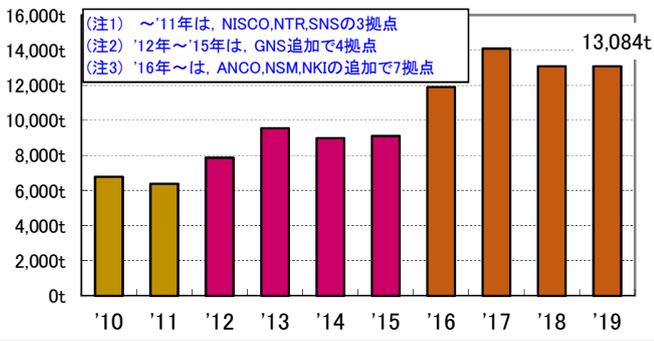
今後とも、生産性の改善をすすめ原単位改善を推進していきます。

主要海外グループ会社 原単位(指数)推移



## ◆ 主要 海外グループ会社の総廃棄物量とリサイクル率

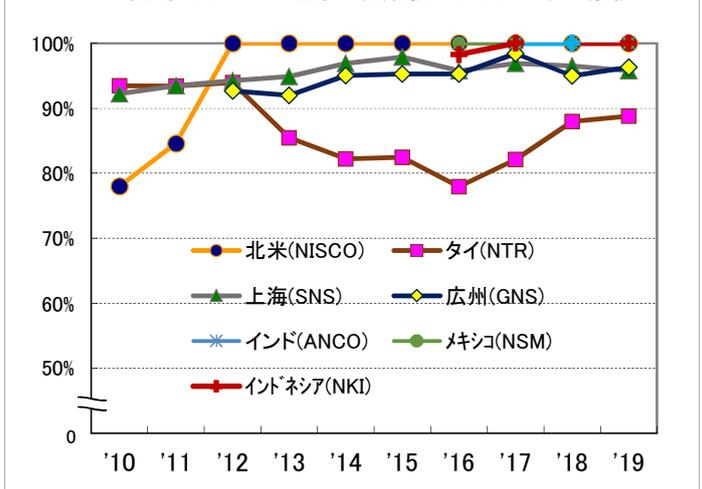
主要海外グループ会社 総廃棄物量の推移



海外グループ会社でも、廃棄物のリサイクル率の向上を目標として取り組んでいます。

100%リサイクルを達成した会社も出てきています。

主要海外グループ会社 廃棄物リサイクル率の推移

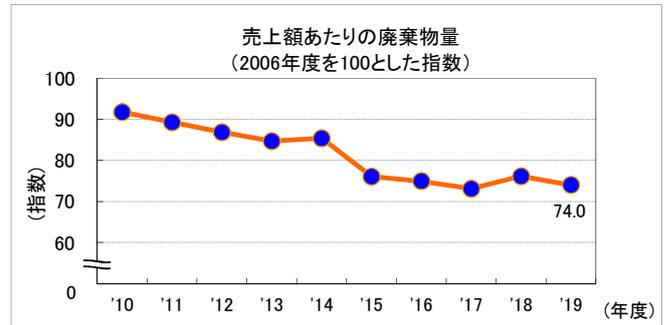
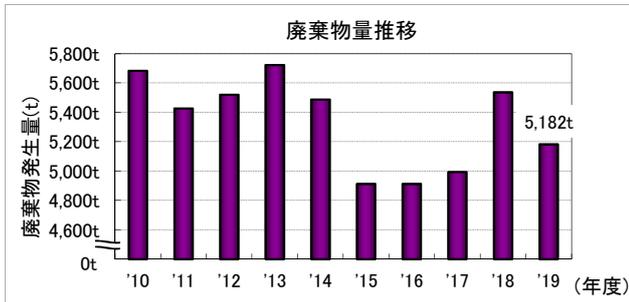


# 廃棄物に関する取組み

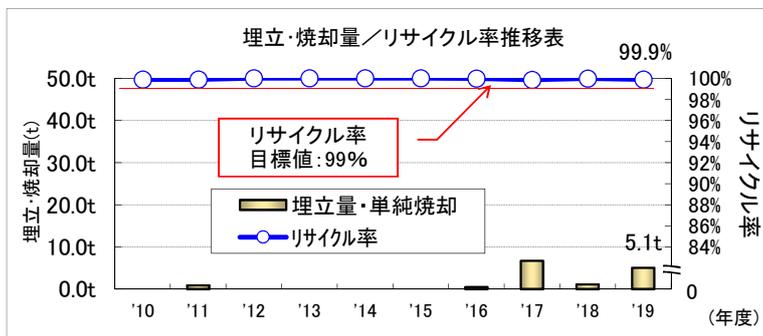
## ◆ 廃棄物量の削減(西川ゴム単体)

2019年度の廃棄物量は、一昨年の豪雨災害の影響と比べれば低減となっているものの、そのことを除いてもここ数年増加傾向となっています。

引き続き、歩留の向上、不良率の低減等、廃棄物発生抑制に継続的に取り組んでまいります。



## ◆ リサイクル率の向上(西川ゴム単体)



2009年度に、目標としてきたリサイクル率99%を達成し、2009年度以降目標値クリアを継続しています。

- \*1)埋立量:直接埋立される廃棄物量
- \*2)リサイクル率:埋立, 単純焼却以外の廃棄物量/廃棄物の総量

## ◆ 廃棄物の有効利用(西川ゴム単体)



工程内ゴム廃材を炭化させたものとアスファルトを組み合わせることにより、丈夫で安価な排水性アスファルト混合物を作っています。

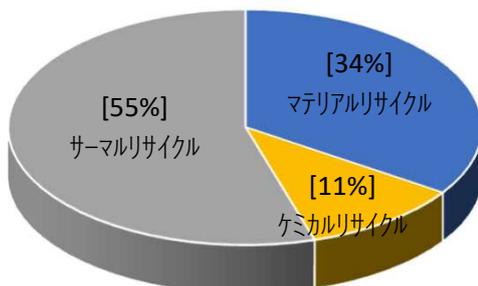


- ※ 乾留技術の詳細については、  
[http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology\\_recycle.php](http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology_recycle.php)
- ※ 炭化物をアスファルトへ添加する技術の詳細については、  
[http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology\\_asphalt.php](http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology_asphalt.php) をご参照ください。

## ◆ リサイクルの内容について(西川ゴム単体)

当社のリサイクルの内訳は、34%がマテリアルリサイクル、11%がケミカルリサイクル、そして残りの55%がサーマルリサイクルです。

<'19年度リサイクル内訳>



### 【マテリアルリサイクル】

ゴムの廃材を利用したゴム板を作成し、一部の自動車のガソリタンク緩衝材や住宅の防音床や、人工芝用資材として、又 ポリエチレンシート of 端材をエアコンのドレンホースの材料として再生されています。



### 【ケミカルリサイクル】

ゴム廃材を連続乾留し、生成された芯金と炭化物をそれぞれ売却しています。



### 【サーマルリサイクル】

セメント会社の原燃料として利用されています。また、RPF (Refuse Paper & Plastic Fuel の略称で固形燃料) の原料の一部となり、多くは製紙会社の燃料として利用されています。



# 環境負荷物質の排出状況と水使用量

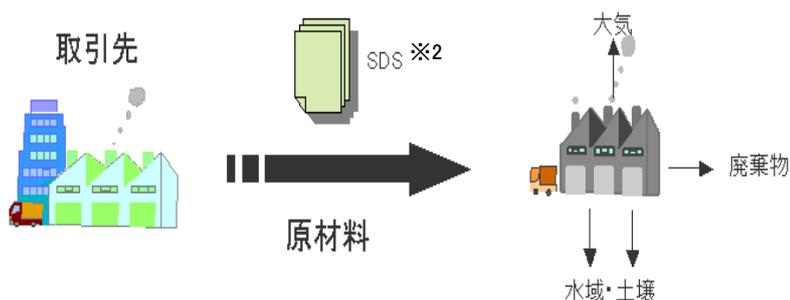
## ◆ PRTR物質の削減

1999年に制定されたPRTR※1法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)に指定された特定化学物質については、排出量を算出しております。

これら化学物質の使用量の削減対策は、製品設計の見直し、改善により取り組んでいます。

※1 PRTR : Pollutant Release and Transfer Registerの略  
環境汚染物質排出・移動登録制度

※2 SDS : Safety Data Sheetの略  
化学物質の性状及び取り扱いに関する情報を記載した化学物質安全性データシート

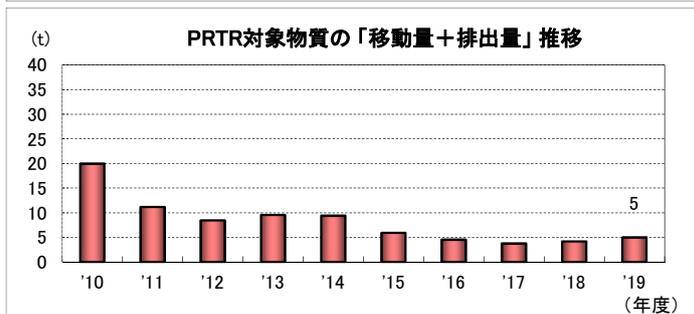
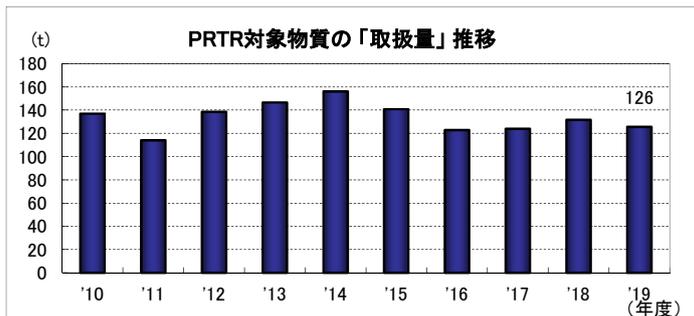


## ◆ 2019年度環境負荷物質の移動量・排出量の状況

〈年間取扱量が1t以上のPRTR法該当化学物質で集計〉 〈単位:t/年〉

政令番号	CAS No	指定化学物質	移動量	排出量			
				廃棄物	大気	水質	土壌
42	96-45-7	2-イミダゾリンチオン	1.30	0.00	0.00	0.00	
268	137-26-8	テトラメチルチウラムジスルフィド	0.83	0.00	0.00	0.00	
372	95-31-8	ビス(水素化牛脂)ジメチルアンモニウムクロリドN-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェアミン	0.21	0.00	0.00	0.00	
452	149-30-4	2-メルカプトベンゾチアゾール	2.60	0.00	0.00	0.00	
438	1321-94-4	メチルナフタレン	0.00	0.02	0.00	0.00	
合計			4.94	0.02	0.00	0.00	

継続的な削減活動を進めた結果、ここ数年 移動量としての多少の増減はみられるものの、ほぼ現状維持の状態です。今後も異常値の発生のないよう日常の監視体制の維持を図ります。



## ◆ 揮発性有機化合物(VOC\*)の排出量削減

当社は、日本ゴム工業会のVOC排出量の削減自主規制計画に賛同し、VOC削減活動を実施しています。



※ VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

VOC 17物質	アセトン, イソプロピルアルコール, キシレン, 酢酸ブチル, 酢酸エチル, シクロヘキサン, シクロロメタン, テトラクロロエチレン, トリクロロエチレン, トリクロロエタン, トルエン, n-ヘキサン, メチルアルコール, メチルイソブチルケトン, メチルエチルケトン, ゴム揮発油, その他の炭化水素(炭素、水素のみで構成されるもの)
----------	--

◎ 日本ゴム工業会のVOC排出削減に関する自主規制計画における削減目標

- ・2008年までに25%以上削減(2000年度ベース)
- ・2010年までに35%以上削減(2000年度ベース)
- ・2011年以降も当面の目標は35%以上削減(2000年度ベース)を継続する

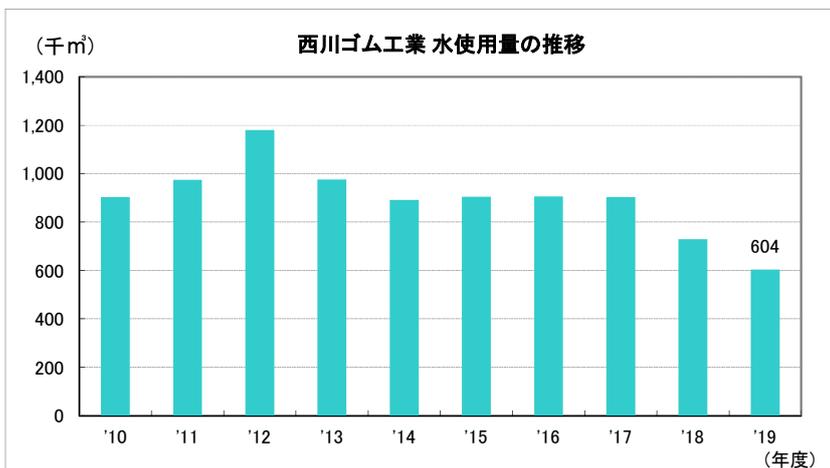
〈年間1t以上の日本ゴム工業会が定めた代表VOC17物質で集計〉

VOC排出量については、早い時期から有機溶剤塗料の水性塗料への切替えを行ってきた結果、日本ゴム工業会の自主目標(2000年度比35%削減)を2005年度には前倒して達成しました。また、自動車工業会の進める車室内VOC低減活動のために、VOC含有素材使用制限活動を展開しています。

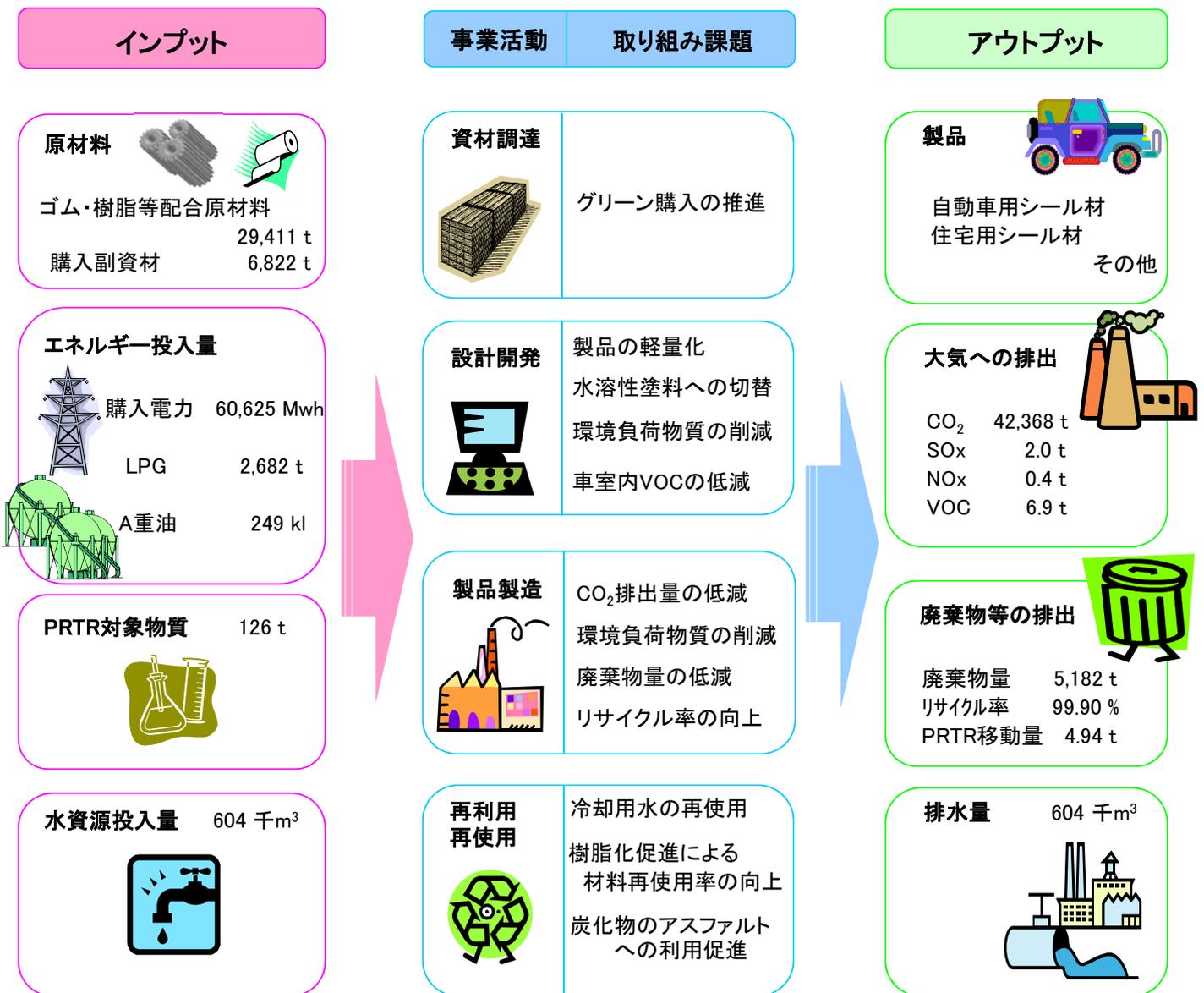
## ◆ 当社の水使用実績の推移

当社の生産活動における水使用の主な目的は、設備や製品関係の冷却です。

排水の水質チェックとともに、使用量について異常の発生を定期監視しています。



# 2019年度の環境パフォーマンスまとめ (西川ゴム単体)



## 《算出方法等》

インプット	原材料	購入した原材料・配合薬品類の量
	エネルギー投入量	工場・事業所における電力、油、ガスの消費量
	PRTR対象物質	工場・事業所におけるPRTR法の対象とされる化学物質

アウトプット	大気への排出	CO <sub>2</sub> : 工場・事業所におけるエネルギー消費にともなうCO <sub>2</sub> 排出量 (エネルギー消費量×CO <sub>2</sub> 換算係数) NOx, SOx: 工場・事業所の排気口(ボイラー等)から排出される 排ガス中の物質濃度を測定した結果に基づき算出
	廃棄物の排出	対象の年度に工場・事業所において埋立処分、単純焼却、リサイクル された量
	排水量	水資源投入量と同じ値(蒸発量は測定できないため、無視しています)

# 環境コンプライアンス

## ◆ 緊急事態 対応訓練

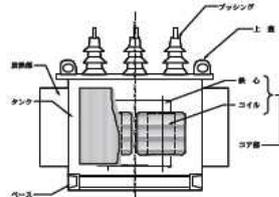
当社では、緊急事態を想定した訓練を実施しています。右の写真は、安佐工場での重油が漏洩した場合を想定した訓練の一例です。



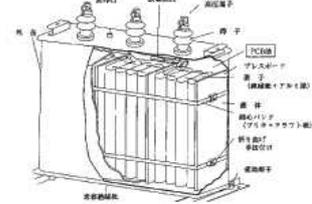
## ◆ ポリ塩化ビフェニル(PCB)含有機器の管理 (特別管理産業廃棄物)



高圧トランスの例



高圧コンデンサの例



2019年度、当社の受電設備関連 処分対象機器(計5台)～法律にもとづいた処置(搬出・処分)を実施しました。(計器用変成機:1台、トランス:4台)

あわせて、2020年度末で法定処分期限を迎える「蛍光灯安定器類」の処分完了(保有無き事)を確認しております。



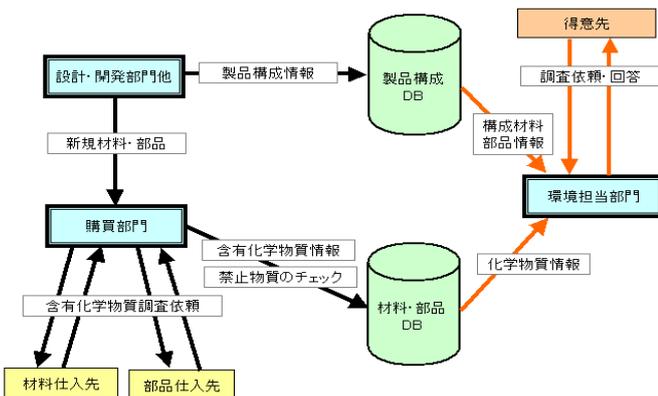
コンデンサを内蔵する安定器の例



今後も、使用中の機器(低濃度)を中心に、計画的な入替え対応を行い、法定期限内に順次適正処分を実施していく予定です。



## ◆ 環境関連法規制に基づく環境負荷物質(SOC※3)管理システムの構築



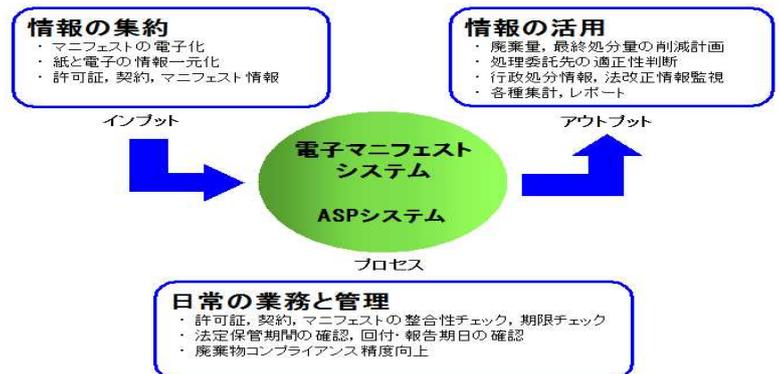
[西川ゴム工業の製品含有化学物質管理のフロー]

欧州のELV指令※4, RoHS指令※5, REACH規則※6, 法規制やお客様からの要求をふまえ、弊社では使用を規制する環境負荷物質(SOC※3)リスト[NSE0001;環境負荷物質の管理規定]を制定し、左記のような体制を構築して、SOCの管理・低減をグローバルで取り組んでいます。

- ※3 : SOC(Substances Of Concern)
- ※4 : ELV(End of Life Vehicles) 指令
- ※5 : RoHS(Restriction of Hazardous Substances) 指令
- ※6 : REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) 規則

## ◆ 廃棄物管理 電子システムの導入

現在、国内Gr各社へ導入している産業廃棄物処理状況の一元管理を目的とした“電子マニフェスト”システムを活用し、引き続きコンプライアンス違反のリスク低減と、業務コストの改善を継続推進しております。



# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション

## ◆ 安佐工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《久地小学校 新1年生へのお祝い》

2019年4月 久地小学校の新1年生へ入学のお祝いを行いました。



### 《地域ふれあい運動会への参加》

2019年9月 「久地学区ふれあい大運動会」において 準備の支援を行い, 当日は従業員も参加させていただきました。



## ◆ 白木工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《工場周辺のクリーンウォーク》

2019年4月 恒例のクリーンウォークを実施しました。



### 《献血への協力》

2019年7月, 2020年1月の2回にわたり, 献血車による献血を実施しました。  
献血者: 49名



### 《白木中学校インターンシップ受入れ》

2019年5月14~16日



# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション

## ◆ 吉田工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《工場周辺清掃》 2019年6月 工場周辺の一斉清掃を実施しました。



《献血への協力》

2019年11月 工場近隣の住民にもご協力いただき、総勢34名の方々に献血をしていただきました。



献血推進代表者 様

11月22日、業務ご多忙にもかかわらず、献血にご協力いただき誠にありがとうございました。今後とも、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。尚、当日の献血状況を次のとおり報告申し上げます。



(名)

	献血 (mL)	参加者	献血者	献血できなかった方
男	200	30	0	5
	400		25	
女	200	4	0	3
	400		1	
計	200	34	0	8
	400		26	

献血場所： 西川ゴム吉田工場

2019年12月2日

広島県赤十字血液センター所長

## ◆ 三原工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《工業団地内の清掃活動》

2019年11月 小原工業団地協議会主催による清掃活動に参加をしました。



## ◆ 西川ゴム山口 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《やまぐち移植医療推進財団運営支援型自動販売機設置》



《工業団地内の清掃活動》

2019年6月 工業団地内一斉清掃を、実習生も参加のうえ実施しました。



自販機の売上金の一部が「やまぐち移植医療推進財団」の活動資金として活かされています。(平成31年度実績:131,458円)

# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション

## ◆ 西川物産 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《排水常時監視設備設置》

工場からの廃水は、廃水タンクに貯められ廃水処理設備にて水と化学物質に分離され、水は水質検査を経て自動で水質を測定記録され基準値内なら下水へ放流し、それ以外の場合は自動で放流停止します。



### 《会社周辺定期清掃》

西川物産では、毎月 第2月曜日を「周辺清掃の日」として定期的な清掃活動を行っております。



## ◆ 西川ビッグオーシャン 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《久地小学校ふれあい運動会への参加 (NBO本社・安佐事業所)》

2019年9月 NRC安佐工場と合同で、実習生も参加して、地元のふれあい運動会へ参加しました。



### 《井原地区クリーンワーク (NBO井原事業所)》

2020年3月 NBO井原事業所と協力企業の従業員で、事業所周辺～駐車場までの通路の清掃を行いました。



### 《水口神社清掃活動 (NBO本社・安佐事業所)》

2019年6月 NBO本社と安佐事業所員で、安佐工場隣接の水口神社境内の草刈り～清掃を行いました。



# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (海外関係会社)

## ◆ NISCO 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

＜海外グループ会社の名称＞  
 NISCO: NISHIKAWA COOPER LLC(アメリカ)  
 NTR: Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.(タイ)

### 《地域貢献活動》

社会貢献として, 下記のプロジェクトへの参加を実施しました。

- ・トペカ小学校 校庭 アースデープロジェクト
- ・ラグランジ郡 エンジェルプロジェクト  
(障害者の労働団体アークのクリスマスギフトキャンペーン)
- ・ビルマ人キリスト教会フェローシップ
- ・地域高校アカデミック推進プログラム
- ・チャリティマラソン
- ・地域農業祭 4Hプロジェクト
- ・フォートウェイン市 桜祭り寄付
- ・ユナイテッドウェイ
- ・地域 アスレチック団体
- ・ラグランジ郡 警察署・銃乱射事件教育プログラム
- ・ノーブル郡 アークプロジェクト



## ◆ NTR 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《地域貢献活動》

2019年9月 洪水で被害を受けたウボンラチャターニーの人達に対して, 社内で収集した服を寄付しました。



2019年12月 工場周辺の清掃活動を行いました。



2020年2月 デパート銃乱射事件被害者への寄付を行いました。

# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (海外関係会社)

## ◆ ANCO 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

＜海外グループ会社の名称＞

ANCO: ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD.(インド)

NKI: PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA.(インドネシア)

NSM: NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. DE C.V.(メキシコ)

《地域貢献活動》

小学校物資支援～四半期毎  
(筆記用具・机椅子など)

貧困者への食事提供～毎月

パラアスリート支援～毎年  
(トレーニング器具提供等)



## ◆ NKI 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《地域貢献活動》

2019年11月 近隣の小学校で清掃活動を行いました。



## ◆ NSM 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《地域貢献活動》

2019年6月 グアナファト州シラオ市の中学校で植樹活動を行いました。(鳳凰木40本)

2019年11月 献血活動への協力を行いました。



# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (海外関係会社)

## ◆ SNS・GNS 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《クリーンウォーク》

(SNS) 工場の周辺の掃除を5月, 10月の2回行っています。



＜海外グループ会社の名称＞

SNS: 上海西川密封件有限公司(中国-上海)

GNS: 広州西川密封件有限公司(中国-広州)

### 《生活困窮者自立支援》

(SNS) 2019年8月～10月 政府の貧困地区援助計画への協力として, 雲南省勐腊県出身者(3名)の受入を実施。

(GNS) 2019年6月 工場周辺清掃活動の実施。



### 《社会貢献活動》

(SNS) 2019年9月 従業員による献血活動への協力実施。



(GNS) 2019年6月 従業員による献血活動への協力実施。





本社前花壇の様々な花々





作成日 : 2020年 8月 31日

発行元 : **西川ゴム工業株式会社**  
品質保証本部 環境安全部

連絡先 : TEL 082-237-9375(直通)  
FAX 082-238-3983(同上)